モニタリングサイト 1000
湿原調査

2012 年 11 月 9 日

はじめに

モニタリングサイト 1000（モニ 1000）陸水域調査は、2009 年度から「湖沼」と「湿原」の 2 つの生態系で調査を実施しています。

湿原は湿った環境を好む草本や蘚苔（せんたい）類などに覆われた湿地のひとつです。この湿原にはさまざまな動植物が生息･生育しており、四季折々の景観がみられます。この景観を作り出す主役となるのが湿原植生です。

モニ 1000 の湿原調査では、湿原植生を記録するためにライントランセクト調査（湿原に線を引き、その線上の決められた地点に生育する植物種を記録する調査）を行っています。また、定点に設置したカメラで湿原景観を撮影して、湿原植物の開花状況や雪解け時期などの把握も試みています。さらに、湿原の環境の基礎情報を把握するため気温や地温、地下水位も測定しています。

2012 年度も 4 つのサイトで調査を行いました。詳細な調査結果は、今年度の『調査報告書』に掲載されるため、ここでは、調査当日の様子や、調査結果の概要をご紹介します。

今年度調査したサイト

今年度は、ライントランセクト調査を 2 つのサイト（サロベツ湿原・釧路湿原）で、定点撮影調査を 1 つのサイト（尾瀬ヶ原湿原）で、物理環境調査を 4 つすべてのサイトで実施。

サロベツ湿原サイト（北海道）

サロベツ湿原は、稚内市の南約 40km に位置する泥炭湿地です。下エベコロベツ川の河川改修の影響で乾燥化が進行しており、ササ群落の拡大が懸念されている湿原です。

今年度は、植生のライントランセクト調査を 8 月 7 日と 8 日に行いました。

今回の調査ではササの被度が前回の調査（2009 年）に比べて 10%程度増えたコドラートもありました。これらのコドラートで、今後もササが増加していくのか、前回や今回の調査で記録された被度の範囲内で増減を繰り返すのかは、今後のモニタリングで判断する必要があります。

調査地付近の景観

ササが優占する一帯

ササが侵入しているコドラート

【調査者・調査協力者】冨士田裕子・村松弘規・李娥英（北海道大学植物園）　写真提供：冨士田裕子

釧路湿原サイト（北海道）

釧路湿原は日本最大の面積を持つ湿原です。調査地点は湿原の西側の温根内地区にあり、4 つの植生タイプ（高層湿原・スゲ型低層湿原・ヨシ型低層湿原・ハンノキ林）にコドラートを設置しています。

今年度も昨年度に引き続き植生のライントランセクト調査を、9 月 13 日と 14 日に行いました。調査の際、ハンノキなどの葉を食べるハンノキハムシが大発生し、ハンノキの葉はこの虫に食べられた穴がたくさんありました。その穴から光が差し込んでおり、普段の調査では暗く感じるハンノキ林の下にも光が届き、昨年度調査の時よりも明るく感じられました。

また、全国の多くの場所でシカによる植生への影響が顕著になっていますが、釧路湿原でもエゾシカの踏み荒らしや採食の形跡を多くの箇所で見つけました。

調査地付近の景観（高層湿原）

調査地付近の景観（ハンノキ林）

ハンノキハムシとそれに食われた葉

【調査者】佐藤雅俊（帯広畜産大学）　写真撮影：佐藤雅俊

八甲田山湿原サイト（青森県）

八甲田山湿原は青森県の豪雪地帯に形成される高層湿原です。調査地は、青森市の中心部から十和田湖に至る道中でもっとも標高の高い傘松峠に隣接するところにあります。

今年度も昨年度に引き続き物理環境調査の一環として、自動で温度を観測できる装置を設置して、気温と地温を測定しました。また、水位を自動観測できる装置を設置して、地下水位の変動を記録しました。

水分環境、気温、地温といった物理環境は湿原生態系をつくりだすのに大きな影響を与えているため、これらの調査で取得されたデータを今後、とりまとめていく予定です。

調査地付近の景観

設置した温度ロガー
（自動で気温や地温を観測できる装置）

設置した水位ロガー
（自動で水位を観測できる装置）

【調査者】佐々木雄大（東京大学）、神山千穂・田中孝尚（東北大学）　写真撮影：田中孝尚

尾瀬ヶ原湿原サイト（群馬県）

尾瀬ヶ原湿原は、東京から北へ約 140km のところに位置し、群馬県、新潟県、福島県の 3 県にまたがる本州最大の高層湿原です。

尾瀬ヶ原湿原では、中田代地域（群馬県）で 2010 年に植生のライントランセクト調査を行い、2011 年から定点カメラでの撮影を試みています。

今年度は湿原景観の変化を捉えるために、7 月にインターバルカメラを設置しました。9 月に回収した画像を確認したところ、7 月 24 日には多く見られた黄色の花（キンコウカ）が、25 日～26 日にかけて少なくなくなっていました。

湿原内に取り付けたインターバルカメラ

キンコウカ（2012 年 7 月 23 日撮影）

2012 年 7 月 24 日（黄色の花が多くみられる）

2012 年 7 月 26 日（黄色の花が少なくなった。矢印は残っている花）

2012 年 7 月 28 日（黄色の花が見られなくなった）

【調査者・調査協力者】野原精一・小熊宏之（国立環境研究所）、中川雅博（日本国際湿地保全連合）
写真撮影：中川雅博

生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

WETLANDS INTERNATIONAL